

学生の「人間関係」を育む 歌遊びを使った授業研究

－ Education Through Music の実践を通して－

土井 由美 (龍谷大学短期大学部)

【要旨】

本稿は、保育者養成課程における保育内容Ⅰ「人間関係」という演習授業の中で、Education Through Music の歌遊びをアクティブラーニングの活動として取り入れたことにより、学生達の人間関係に対する考え方に変化が生じたのかどうかを考察するものである。Education Through Music の歌遊びを実施する前に学生達を書いたコメントペーパーでは、「クラスの人間関係にそれほど多くの関わりを求めておらず、期待していない」旨の意見が複数見られた。しかし、歌遊びを実施した後のコメントペーパーには、「思ったより人と関わるのが楽しく、友達への関心が高まった」といった趣旨の意見へと、人間関係に対する考え方が変化した内容が見て取れた。

【キーワード】 保育内容「人間関係」、人と関わる喜び、人と関わる力、他者への興味・関心、アクティブラーニング、Education Through Music

I はじめに

1 領域「人間関係」

幼稚園教育要領および保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「人間関係」とは、「他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う」(内閣府：2018) 領域とされている。母親との二者関係で守られて生きてきた子ども達にとって、母親と離れて保育所や幼稚園に入り、人間関係という領域のねらいに即した力が育まれるためには、保育者の援助が必要不可欠である。特に乳児期において、保育者による受容的で応答的な関わりを通して芽生え、育まれていく自己肯定感は、生涯にわたって人との関わりの中で生きていく力の基盤となる。保育者が子どもの多様な感情をしっかりと受け止め、温かく受容的・応答的に関わり、一人ひとりに応じた適切な援助を行うためには、保育者自身に受容された経験からくる安心感、温かさ、

人への興味関心を持つことが求められる。

しかし現代社会における人間関係の希薄化は、人間関係全般に大きな影響を及ぼしている。子育て中の親世代も孤立しがちであったり、人間関係に苦労したりしている話も保育現場からよく聞こえてくる。また保育士の退職理由の上位にも人間関係の悩みが挙がっている¹⁾。保育者になることを目指している学生達の中にも、人間関係に不安を抱える学生がいる可能性がある。

2 問題提起

保育者養成校における、保育内容Ⅰ「人間関係」という授業である以上、保育上の知識の伝達に留まらず、学生達の人間関係に対する意識の向上、実生活における人間関係の在り方や改善なども含めて学生の資質面を支援するべきであろう。筆者が担当するこの授業においては、到達目標を二つ設けている。一つは、乳幼児期の生活や遊びの中で育つ「人と関わる力」の発達について理解し、その発達の援助に携わる保育者に必要とされる基本的な視点と具体的な方法を学ぶことである。もう一つは、「歌遊び」の中で育まれることの育ちへの理解を深め、クラスの仲間との「歌遊び体験」を通して、自らも人と関わる力を育むことである。

そこで、第一回目の授業当日、クラスの人間関係について感じていることを、コメントペーパーに書いてもらったところ、「今の仲の良い友人と関わるだけで十分で、クラスの全員と仲良くなりたいとは思わない」「特定のグループでいることで居心地がよく、他の友達を積極的に作りたいと思っていない」といった人間関係構築に積極的ではない学生達が存在することがわかった。その数は、筆者の予想を上回るものであった。保育者になりたいという同じ夢をもって集まった短期大学のクラスメートに対してさえ、学生達はそれほど関心を持っていないのである。将来、学生達が保育者になった際には、職場での同僚間の人間関係や保護者との人間関係、または日々の子ども達との人間関係をうまく構築していってほしい。その為には、学生達自身が「人と関わる喜び」を知っていること、「人と関わろうとする力」を備えていることが求められる。そこで、筆者が長年研究している北米の全人教育プログラムである Education Through Music（以下 ETM）の歌遊びを学生達に経験してもらうことにより、学生の人間関係に対する考え方に変化が生じるのかどうかを、歌遊びの前後に学生達が書いたコメントペーパーの内容から考察することを試みた。

Ⅱ 授業の実践内容

授業名：保育内容Ⅰ「人間関係」

対象者：龍谷大学短期大学部こども教育学科1年生 A クラス（47名）

実施年月日：2017年6月～7月

全8回（90分）の授業のうち4回の授業において、40分程度の歌遊びを取り入れた。

1 実践事前調査

まず学生達がクラスの人間関係についてどのような意識を持っているのかを知るべく、初回の授業で調査を試みた。学生達に、「入学してクラスの人間関係についてどのように感じていますか？」という質問をした。そして、その答えをコメントペーパーに書いて提出するよう学生達に指示した。以下は、学生達の意見の一部を示したものである。

- ・「みんな明るくて優しい人が多いです」
- ・「保育者という同じ目標に向かって楽しく学べる仲間です」
- ・「入学してすぐに出来たグループがいくつかあり、その中で活動しています」

上記のような意見が多い中、筆者が気になった意見として、次のようなものがあった。

- ・「仲の良い友達といるだけでいいので、他の友達をあえて作ろうとは思わない」
- ・「人間関係で悩みたくないの、深く関わりたくない」
- ・「今仲良くしている数人のグループで一緒にいるのが楽しいので今のままで充分である」
- ・「最初に仲良くなったグループで固まっていて、その壁を壊してまで他の友達と仲良くなりにくい」
- ・「もっといろんな人と仲良くなりたいけれど、容易ではない」

入学してすぐに出来るグループは、しばらくすると人間関係に歪みが生じ、悩み出す学生も出始める。こうした学生の人間関係に関する実情を踏まえると、この授業の到達目標の一つである、「歌遊びを通して、クラスの中で人と関わる力を育む」という活動を行う

ことは意義があると考えた。

2 ETM とは

ETM は、1960 年代後半にアメリカ・カリフォルニアのメアリー・ヘレン・リチャーズ博士（Dr. Mary Helen Richards）によって音楽教育の手法として始められた。ETM の特徴は、歌遊びの中で起こる様々な経験を通して子どもの豊かな成長と発達を支援することにある。日本には 1980 年に紹介され、その後の長年にわたる実践・研究の結果、特定教科の枠を超えた総合的な教育プログラムとして、保育・教育分野、英語教育分野、家族支援等の場で実践されている。

3 ETM を使う理由

ETM のプログラムは、幼児から大人までを対象にした 50 年ほどの実践の間に、音楽性以外に言語、動き、認知、社会情動的スキルなどの総合的な育ちが期待できるプログラムとして発展してきた。特に、勝ち負けのない非競争的な環境と歌・遊びという開放的な雰囲気が、参加する人の存在をそのまま受け容れることを可能にし、誰でも安心して参加できることが特徴である。また、ETM では参加者の年齢に相応しい、経験してほしい要素を含んだ遊びを提供することができる。このような ETM の持つ特徴を活かした歌遊びを授業内で行うことにより、学生達は本気で童心にかえって遊ぶことが可能になる。そこで筆者は学生達の中に人間関係に対する意識の変化が起ることを期待した。なお、表 1 は、授業内で用いた曲名と歌詞、遊び方と内容などについて示したものである。

4 実践の方法と内容

ETM の歌遊びは“Song-Experience-Game”と呼ばれ、その歌遊びの中には、表 1 で示したような、受け容れられる、選ぶ、選ばれる、交わる、協働する、表現するなど多様な経験が含まれる。こうした経験の中から学生達の心の変化に効果的であると筆者が考える種類の遊びを選び、学生に実践した。学生達には、授業の終了後に自らの体験を振り返ってもらい、自分の心の中に起った変化について書いたコメントペーパーを提出してもらった。学生達には、コメントペーパーの内容を研究に用いる可能性があることと、そのことに対する異議があれば申し出ることを口頭にて伝えた。その後、異議を申し出る学生はいなかった。

表1 実施を試みた歌遊びの曲名・歌詞・内容と経験

回数	曲名と歌詞	遊び方と内容	提供される経験	学生の経験
1回目	Skip to My Lou ♪ <i>Hi Mary, I see you</i> <i>Hi Tom, I see you</i> <i>Hi Kathy, I see you</i> <i>Skip to my Lou, my darling</i>	3人グループになり、歌詞の通り、Hi Mary, I see you と二人が一人に向かって名前を呼びながら、手を振って挨拶する。手を繋いでスキップで回る	自分の名前を仲間から呼ばれることで、自分の存在を受け容れられる	話したことのないクラスメートから名前と呼ばれる／見つめられる／手を繋いでスキップする一体感／承認
2回目	Sing, Sing Together ♪ <i>Sing, Sing together</i> <i>Merrily, merrily sing</i> <i>Sing, Sing together</i> <i>Merrily, merrily sing</i> <i>Sing, sing, sing, sing</i>	階名を表すド・ミ・ソのハンドサインを使って遊ぶ ・ペアになって、階名のハンドサインを合わせる ・Merrily の部分に、相応しい動作を考えて振り付ける ・それぞれのペアの振り付けを鑑賞する	音をハンドサインというシンボルで表す体験 パートナーと心を合わせる 目を見つめる 動作を作る協働作業 振り付けの発表 他の作品を鑑賞 一緒に歌う体験	今まで関わりがなかったクラスメートと向かい合う 協働作業／アイデアを出す／受け容れる／見つめ合う／手を合わせる／歌いながら発表する 他者を観る／美しいハーモニーを作る
3回目	Scotland's Burning ♪ <i>Scotland's burning</i> <i>Scotland's burning</i> <i>Look out! Look out!</i> <i>Fire! Fire! Fire! Fire!</i> <i>Pour on water, pour on water</i>	ソ・ド・レ・ミのハンドサインを使ってペアワーク ・8～10人のグループになって、「スコットランドがなぜ燃えたのか？」の即興劇を作って発表する ・他のグループの発表を鑑賞	グループ活動による協働／即興劇作成の為に他者とのコミュニケーション／制限された中での創作発表 他者の作品鑑賞	同上の体験に加えて／制限時間内での協働作業／自分の意見を述べる／認められる／相手の意見を尊重する／成果を発表する／想像性・創造性の違いなどに気づく
4回目 －①	Hello-Good Bye ♪ <i>Hello, hello!</i> <i>Tra la la la la la la</i> <i>Good bye, good bye!</i> <i>Tra la la la la la la</i>	ペアと手を合わせ、hello/good bye と挨拶する どんどん変わる相手と手を合わせる／出会いを楽しむ 自分の動作と人の動作の違いを楽しみながら、一緒に歌い踊る	歌詞の通り、出会いと別れの繰り返しを楽しむ／ペアで考えた動作を動きの中で表現しながら、新しいパートナーの表現を楽しむ	歌に合わせてどんどんパートナーが変わっていく中で、初めての人、苦手意識のあった人とも短い時間で向かい合う／愉快な動作を楽しむ／一緒に笑い合う
4回目 －②	The Miller ♪ <i>Happy is the miller as he lives by himself</i> <i>As the wheel turns around, it's the getting of his wealth</i> <i>One hand on the hopper and the other on the sack</i> <i>As the wheel turns around and the miller cries "GRAB!"</i>	パートナーと手を繋いで歌って歩く／歌の終わりの Miller の合図（GRAB!）で新しいパートナーを探して組む遊び／一人残るようになっているので、残らないように戦略を立てる	ビートに合わせて全体で歩く一体感／音楽性 1人残されるスリル／残らないようにパートナーを探す積極性／パートナーと出会えた時の喜び	一人残る負荷に耐える／パートナーになる為に誰かを掴む／捕まえてもらった喜びの感覚／1人残されても受け容れられている安心感

（筆者作成）

Ⅲ 実践結果

1 結果

提出されたレポートは42枚であった。その中から、本研究に関連するコメントを33件取り出した。この33件のコメントについては、本稿の巻末に参考資料として付している。

さらに、「人と関わる喜び（楽しさ・嬉しさ）」「人と関わる力」「他者への興味・関心」という三つのキーワードを設定し、これらのキーワードをそのまま含んでいるものと、それに近い意味を含むものを33件のコメントから抽出したところ、24件に及んだ。つまり、ETM 歌遊びを体験し、レポートを提出した人数42名の約57.1%に「人と関わる喜び」や「人と関わる力」「他者への興味・関心」に意識の変化が見られたことになる。表2は、そうした意識の変化が確認できた学生の明確なコメントを選んで示したものである。

表2 「人と関わる喜び」や「人と関わる力」「他者への興味・関心」に対する学生の意識の変化

・ETMを通して、自分の中にある壁が「楽しさ」や「音楽」を通して崩れていき、周りの人への興味が湧いてきたり「もっと話したい」という関心の気持ちが湧くという変化が起きました。
・自分の中に起きた変化は、人と関わるのが好きになったことです。人と関わることの楽しさや、その楽しさを共有できる嬉しさに気づきました。
・私は遊びを通して、人との関わり、人と一緒に何かをする大切さを学んだ。
・ETMの遊びは、誰か一人だけが中心ではなく、遊んでいる一人ひとり皆が中心で楽しいものができるので、豊かな人間関係を育むことが出来るのがとても良いです。
・正直言うと、私はあまり特別に一緒にいる人以外、クラスの人たちと仲良くなかったし、喋ることも少なかったです。ですが、このゲームを行うことによって、クラスの人たちとの会話や協力が増え、人との関わりの大切さを改めて感じる事が出来ました。
・この遊びを通して、私自身人見知りを少し克服出来たと思うし、たくさんの人ともっと関わりたいと言う気持ちが芽生えてきました。
・これまで自分からなかなか声をかけることができなかったけれど、授業を通して自然に自分から声をかけて関わろうとすることが出来るようになったと思う。ただ楽しいというだけでなく、人間関係を築いていく為にも必要な積極性や、相手の事を考えるといったようなことが大切であるという事も気づいたり考えたりすることが出来た。
・単純な動作だけど、19歳でも笑顔で楽しめるETMは、人間関係の形成に役立つものだなと思いました。
・今までクラスの人と関わりを持つことを避けてきたのですが、今は抵抗感もあまりなく楽しめていると思います。(中略)他の人をよく観察する気になるようになった。
・いざペアになってみたら、自分が思っていたより相手がすごく優しくったり、「思っていたより」という事が増えて、今では他の授業でも特に抵抗を感じなくなったし、友達とかみんなに対する再発見が得られました。
・私は自分を表に出すのが苦手です。恥ずかしがって出来ないタイプでした。でもETMゲームの歌遊びをはじめから自分から意見を出したり、また歌も大きな声を出して歌えるようになりました。ペアがいなかったら自分から手をあげて積極的に取り組めるようにもなりました。それから、あまり話をしなかった人にも気軽に話かけられるようにもなりました。初めてペアになったときに自分から話しかけられるようになりました。素直に喜んだり、笑ったり、歌ったり、驚いたり、感動したりするようになっていました。
・人見知りをしてしまう私ですが、ゲームや歌を通して人と関わると、思っていたよりも人見知りをしないことに気付くことができました。私みたいに思っている人は多いだろうなと思いました。

(学生のコメントより筆者作成。原文のまま)

2 考察～ETM の歌遊びの効果をつまえて～

ETM の歌遊びを実施する前は「親しい友人以外に興味を示さない」と言っていた学生が、実践後には「もっと色々な人と関わりたい」という気持ちへと変化するに至っている。その理由は ETM の歌遊びの効果があったからではないかと考える。「人と関わる喜び」「人への興味・関心」は、保育者として持っていてほしい資質であるが、ETM の歌遊びを経験することで そのような資質が学生の中で開花する傾向が見て取れる。

ETM は北米のプログラムであるがゆえに、マザーグースなどの伝承歌を使って遊ぶ。英語であることが学生達の知的好奇心を刺激するからか、また高揚感のあるリズムも手伝うからか、日本語の手遊び歌や童謡で子どもの気持ちになって遊ぶ時とは遊びの質が違いう。と言うのは、手遊びや電車ごっこで4歳児や5歳児の行動や気持ちを想像して遊ぶことは出来ても、学生が電車ごっこをして、本当に4歳児のようにワクワクとその遊びに没頭することは難しい。子ども達が我を忘れて没頭し、「もう一回やろう！」と何度も繰り返すような、学びや発達を含んだ遊びの質にはなかなか届かない。一方、ETM の歌遊びを始めると最初は手を取り合ったり、見つめ合ったりして遊ぶことに抵抗している学生も、自分の年齢に合った歌や遊びとその中での経験や楽しさに次第に引き込まれていき遊びに没頭していくことができる。

例えばある学生は「授業時間を忘れるくらいのめり込んで参加」しており「子どもの頃に戻ったよう」な気持ちになり「幼稚園・保育所子どもたちにもこんな気持ちになってほしい」と振り返っている。子どもたちに体験させたいようなワクワクした楽しい気持ちを学生達自らが経験したことは、保育者を目指す学生達には「遊びの原体験」として是非覚えておいてほしい感覚である。こうした体験無しには、あるいはその感覚を忘れていては「子ども達が遊びの中で育まれる」ということの本当の意味が理解できないであろう。

つまり 実際に子どもと遊ぶ中で、その遊びの何が楽しいのか、人と関わること、一緒に遊ぶことがどう楽しいのかを学生達自身の感覚として覚えておくこと、それを養成校の授業の中でも体験し直し、「子ども性」を取り戻しておくことが大切ではないかと考える。

先に挙げた三つのキーワードには当てはまるものではないが、自分の心の変化をしっかりと振り返っている学生のコメントを原文のまま紹介する。

私は小さい頃から人と関わるのが苦手な子だと話していたらいいと思っていました。この授業の第一回目で、人と関わりと聞き苦手な授業だと思っていました。ですが回数を重ねて行くうちに、全く話したことのない子と音楽や体を通じて

コミュニケーションが取れて、全く苦ではなくなってきました。みんなで楽しく動いていると子どもの頃に戻ったようで 自然に笑顔になれるので 今までだったら無理して笑っていたような間柄でも、この授業で関わるようになって楽しく心から笑い合うことができたから、授業外であっても積極的に話して「楽しいなあ」と素直に思えるようになりました。人間関係という大切なことで 友達との信頼関係を考えるようになりました。自分を見つめ直す機会があったことで「こんなところがあるんだ」と知ることにもつながり、新しい経験をたくさんできたなと感じます。人間関係を作っていくのは簡単なことでは無いですが、勝手に「仲良くしないと決めつけない」とつながりが出来上がるということを学ぶことができました。

このコメントを始め、他のコメントからも推察できることは、学生達が本当はたくさんの友達と仲良くなりたいたい、関わりたいと思っているにも関わらず、人間関係を構築する上での最初の壁をどのように突破したらよいかかわからず、不安や怖さを感じたまま立ち止まっているのではないかということである。遊びの中で偶然対面することになった友達に、「思っていたより優しかった」と、不安を持ちながらも関わった他者との心の通い合いを喜んでいる様子がうかがえる。つまり、ETM での「歌の終わったところの人と組む」などの強制的なルールが既存の人間関係の壁を壊し、自分の意図しない人と組むという環境が設定されることにより、思い切って他者と関わってみたらそこに「響き合う喜び」を感じることができたという結果が起きている。その喜びの経験が学生達の心の中に積極的に人と関わってみようかなという気持ちを起こさせることに繋がっていると考え

る。

この ETM の歌遊びを行った授業の中で出来たからと言って、すぐに実際の人間関係の中でそのように行動できるかどうかはまた別の問題であろう。しかし、たとえ授業の中であるとはいえ、他者と響き合った一瞬の嬉しさ、喜びを経験したことは学生達にとって大きな力になる。自分が他者と響き合えた喜びを知っていれば、他者も自分と同じようにその喜びを経験することを望むと信じられるからである。

保育者として子どもを預かるようになれば、その子ども達と響き合う喜びを感じて日々を過ごさなければならない。子ども達の中には親の養育状態によって人を信じる力の弱い子どもも含まれるであろう。響き合うのが難しい子どもとの情動調律には、保育者が人を信じる力をしっかりと持ち合わせている必要がある。保育者自身が人と関わることをためらったり、傷つくのを恐れて消極的になったりしては、子ども、保護者、同僚との人

間関係を円滑に進めることも難しいであろう。

保育者を目指す学生達には ETM の歌遊びを経験したことを契機として、それまで知らなかった学生に触れた時に受け容れられた嬉しさや、笑い合っって響き合えた喜びの感覚を覚えていてもらい、人間関係により肯定的、積極的になってほしいと願っている。

IV 今後の課題

本稿では、ETM の歌遊びを、保育内容 I 「人間関係」の授業に取り入れるることにより、学生達の人間関係に対する考え方に変化が生じたのかどうかを考察した。その結果、ETM の歌遊びが、学生達に「人と関わる喜び」や「人と関わる力」「他者への興味・関心」といった人間関係に関する意識に変化をもたらしたことがわかった。しかしながら、このことは、ある特定の期間に保育内容 I 「人間関係」の授業を受講した学生達に限定して調べた結果である。今後も、本稿に示したものと同様の授業を行い、学生達のコメントペーパーの分析をすることを通して、ETM の歌遊びが学生達の人間関係に対する考え方に変化をもたらすのかどうかを、継続して探究したいと考える。

【注】

- 1) 平成 30 年度東京都保育士実態調査結果 <http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/> (2019. 12 取得)

【引用・参考文献】

- 汐見稔幸／無藤隆監修 ミネルヴァ書房編集部編 (2018) 『〈平成 30 年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』ミネルヴァ書房
- 無藤隆・古賀松香編著 (2016) 『社会情動のスキルを育む「保育内容 人間関係」乳幼児期から小学校へつなぐ非認知能力とは』北大路書房
- 佐々木正美 (2004) 『いい人間関係ができる子に育てたい 友達作りの能力をのばす親の工夫』新紀元社
- 佐々木正美 (2011) 『完 子どもへのまなざし』福音館書店
- Education Through Music 研究会編 (2018) 『ETM 実践ハンドブック ETM Practical Handbook for Japanese Users』Education Through Music 研究会

《巻末資料》「ETM を通して自分の中に起きた変化について」

キーワード：「人と関わる喜び（楽しさ・嬉しさ）」「人と関わる力」「他者への興味・関心」

1	ETM を通して、自分の中にある壁が「楽しさ」や「音楽」を通して崩れていき、周りの人への興味が湧いてきたり「もっと話したい」という関心の気持ちが湧くという変化が起きました。
2	自分の中に起きた変化は、人と関わるのが好きになったことです。ETM の時間は、同じ空間にいる人達はみんな友達だと思って誰とでも話することが出来るようになり、人と関わることの楽しさや、その楽しさを共有できる嬉しさに気づきました。歌あそびはこどもでも大人でも、一つのコミュニケーションとして、さまざまな人と関わり、信頼関係を築いていくことが出来る力があるのだと感じました。
3	私は小さい頃から、人と関わるのが苦手で、仲良しの子だけと話していたらいいと思っていました。この授業の第一回目で、人と関わると聞き、苦手な授業だと思っていました。ですが、回数を重ねて行くうちに、全く話したことの無い子と音楽や体を通じてコミュニケーションが取れて、全く苦ではなくなってきました。みんなで楽しく動いていると、子どもの頃に帰ったようで、自然に笑顔になれるので、今までだったら無理して笑っていたような間柄でも、この授業で関わるようになって楽しく心から笑い合うことができたから、授業外であっても、積極的に話して「楽しいなあ」と素直に思えるようになりました。人間関係という大切なことで、友達との信頼関係を考えるようになりました。自分を見つめ直す機会があったことで「こんなところがあるんだ」と知ることにもつながり、新しい経験をたくさんできたなと感じます。人間関係を作っていくのは簡単なことでは無いですが、勝手に「仲良くしない、と決めつけない」とつながりが出来上がるということを学ぶことができました。
4	ETM は、目と目を合わせる、手と手をつなぎ、一緒に歌うなど、人と関わるのが主で、普段交流がない人とペアになっても自然と「楽しい」と思えて笑えるものだった。こども達も、私のように最初は不安や恥じらいがあると考えるので、保護者としてまず一番に楽しいという雰囲気作りが大切である。私は遊びを通して、人との関わり、人と一緒に何かをする大切さを学んだ。
5	この授業で ETM をしていく中で、本当に大切なことは、人と関わってそれを心から楽しむこと、人と関わることは楽しいんだと思うことを実感しました。またいつも一緒にいて仲良い友達とも改めて目を合わすとなると少し恥ずかしかったり、逆に普段あまりしゃべらない友達と ETM でコミュニケーションをとると、すごく楽しくて ETM をきっかけに仲良くなった友達とかができて、言葉だけでなく、触れ合ったりアイコンタクトをとることの大切さにも気づけました。
6	適当に歩いてその場にいる人とペアになるのが不安でしたが、何回もやっているうちに、だれもペアになる人がいなかったら、手を挙げてみんなに「ペアいません！」と伝え、自分から積極的に探していけました。ETM の遊びは、誰か一人だけが中心ではなく、遊んでいる一人ひとり皆が中心で楽しいものができるので、豊かな人間関係を育むことが出来るのがとても良いです。（後略）
7	ETM の遊びを通して、今まで自分を出さずに周りの人の意見を受け入れることしか出来なかったのに、自分の意見をみんなに伝えるということを怖がらずに出来るようになりました。この変化を経験して、自分が保育者になったと時に、入園したての園児たちの心の中にある恐怖を自分が少しずつ和らぐようにしていきたいと思いました
8	私は今まで自分から手を挙げたり、何か行動を起こすことをためらっていて出来なかったが、歌あそびを経験して出来るようになったと思う。みんなで遊ぶことが楽しいと感じ、今まで苦手やってこなかった事も、楽しみながらやれるようになった。楽しむという事はとても大切な事だと気づいた。
9	第一回目からの講義で、音楽を通して人と関わる楽しさが芽生え、しっかりと目を合わせて話すようになった。また電車の中などで外国の母親の方が英語の曲で子どもをあやしているのを見てすごく興味が湧いた。今まで音楽に対してコミュニケーションツールという認識があまりなかったが、素晴らしいツールだと思うようになった。

10	最初は恥ずかしかったけれど、その恥ずかしさもだんだん慣れてきて、目を見たら自然に笑い合っていることに気づきました。そしてペアを何回も変えていくことによって、今まであまり交流のなかった人の人相が分ったりして、すぐに壁がなくなったと感じます。
11	正直言うと、私はあまり特別に一緒にいる人以外、クラスの人たちと仲良くなかったし、喋ることも少なかったです。ですが、このゲームを行うことによって、クラスの人たちとの会話や協力が増え、人との関わりの大切さを改めて感じる事が出来ました。
12	話したことのない子とたくさん関わる事が出来たり、友達の新しい一面を見ることが出来たりと、みんなで楽しくゲームをする中で発見することが出来た。これまで自分からなかなか声をかけることができなかったけれど、授業を通して、自然に自分から声をかけて関わろうとすることが出来るようになったと思う。ただ楽しいというだけでなく、人間関係を築いていく為にも必要な積極性や、相手の事を考えるといったようなことが大切であるという事も気づいたり考えたりすることが出来た。
13	ETM の歌遊びを通して、2つ自分の中で変化が起きたと思います。1つはあまり以前より人を選ばなくなったこと。二つ目は心の底から歌う事が楽しい、みんなと歌うのが楽しい、もっとみんなと歌って遊びたいと思うようになったこと。1つ目のあまり人を選ばなくなったというのは、入学してからある程度時間が経ってきたからというものかもしれませんが、だからこそいつも一緒にいる子とできるだけパートナーになりたい、あの子少し苦手だなあと思うのですが、ETM の歌遊びをしていると、歌が終わるまでにペアを組まないといけないと思うと、誰でもいいからとりあえず組もう、という気持ちになって、多少苦手な子とも組むようになった。しかも手をつないだり、相手の目を見たりしないといけないので、最初は「えっ！？」と正直思ったし「相手も嫌なんじゃないかな」とかいろいろ考えたけど、いざペアになってみたら、自分が思っていたより相手がすごく優しくかったり、「思っていたより」という事が増えて、今では他の授業でも特に抵抗を感じなくなりましたし、友達とかみんなに対する再発見が得られました。
14	初めて歌遊びをしたとき、気恥ずかしさと、ペアの人がいなかったらどうしようという不安、緊張でガチガチになりながらやっていました。けれど、やっていくうちにクラスのみんなと顔合わせる事は楽しい! と、どんどん自分が積極的にようになっていくのを感じました。今では授業時間忘れるくらいめり込んで参加しています。まさに子どもの頃に戻ったようで、自分も幼稚園保育所のクラスを持つなどで子どもたちと接する時に、子どもたちにこんな気持ちになってほしいと思います。
15	私は自分を表に出すのが苦手です。恥ずかしがって出来ないタイプでした。でも ETM ゲームの歌遊びをし始めてから自分から意見を出したり、また歌も大きな声を出して歌えるようになりました。ペアがいなかったら自分から手をあげて積極的に取り組めるようにもなりました。それから、あまり話をしなかった人にも気軽に話かけられるようにもなりました。初めてペアになったときに自分から話しかけられるようになりました。素直に喜んだり、笑ったり、歌ったり、驚いたり、感動したりするようになっていました。
16	普段全然話したことがなくて、話しづらいのと勝手に思っていた子とも、なんともないように話せて、少し心の壁が取れたような気がする。同じクラスなのに、名前もわからない子とかいたけど、この授業で名札をつけていろいろ回っているうちにだんだん覚えてきて、話したことない子に対する苦手意識がなくなってきたように思う。大学の友達とかそんなに仲良くならないかな、、、、と思っていたけど、どうせならみんなとワイワイできる仲間になりたいなあとか、意識が変わっていくのがわかりました。グループ活動が多かったので、「みんなで」というのがやっぱり楽しいなあと感じました。
17	最初は仲の良い友達とペアになつたりしていたのですが、嫌でも関わりがなかった子とペアになると、案外しゃべりやすかつたり自然と楽しめていました。そこから仲良くなり、他の時間でもしゃべるようになったりできるようになりました。なので私は、関わってみないとどんな人かわからない、と思えるようになりました。嫌だからやらないとか仲良くないから関わらないのではなく、やってみよう、しゃべってみようという積極的な気持ちが大切だということを学びました。これからは少し嫌だと感じたことででも挑戦してやってみようと思います。

学生の「人間関係」を育む歌遊びを使った授業研究

18	私は人見知りなので、しゃべったことがない人と何かをするのは緊張するけど、音楽を通しての歌遊びなら何も緊張することなく全力で楽しめました。音楽はすごい力を持っているなと改めて実感しました。(中略) またスコットランドバーニングの歌はイメージを想像しながら遊べるので、子どももだけど自分も想像力豊かになるし、2人でやることであまり関わったことがない子とも仲間意識が生まれて前より仲良くなった気がします。
19	人見知りなところがあるので、いつも仲良くしている友達とは別の友達と一緒に取り組んだりグループになったりするのも少し抵抗がありました。でもこの ETM の活動をしているうちに自分の意見が言えたりいろいろな友達と話せたり出来るようになりました。これからもこの ETM の活動を通してもっと自信を持って発言できるようになりたいです。
20	ETM の歌遊びをして行く中で、今までそんなにしゃべったことがない友達と関わることができたので、この歌遊びで良いスキンシップが取れるんだなと思いました。またこの遊びを通して、私自身人見知りを少し克服出来たと思うし、たくさんの人ともっと関わりたいと言う気持ちが芽生えてきました。
21	同じクラスでずっと一緒に授業を受けるといってもまだ話したことのない子も数人いたので、初めは正直不安でした。どんな子かもよく知らなかったので、近づいていくことさえ迷いました。しかし最初の歌遊びから名前を呼ぶなど、相手との距離が近づくことをたくさん取り入れられていたので、自分からも積極的にペアやグループを作りに行くことができました。一度話してみると話しやすい子もたくさんいて、その後は挨拶も出来るようになり、クラスで話す子が増えてきました。保育士になってもコミュニケーション能力が必要になってくるので、この力を養う良い機会になりました。
22	人見知りをせず、楽しく意見を言い合うことができました。話す機会が少なかった人たちとも楽しく変な感じもなく出来ました。歌と振りをつけることにより、自然に覚えることができました。何も考えずに無邪気に遊ぶことが出来、楽しく、久しぶりにこんなに遊びを楽しむことができました。恥ずかしがり屋なのに、大きな声で歌えるようになっていました。
23	クラスの中でこの3回ほどの授業でいろんな人と話せるようになったし、親しくなれた気がする。やる前仲良い人達ばかりだったけども、もっともっと幅広く話せる人が増えて話せない人がいなくなったと思う。
24	今この年齢で、みんなで歌って踊るというのは、初めは正直恥ずかしさがありました。仲良い人同士だけではなく、あまり関わったことのない人とも2人1組にならないといけないし、気が進まない部分もありました。なので、「自分からやりたい」と言うよりは「やらされている」という感情の方が大きかったです。だけど2回3回と回数を重ねるごとに「早くやりたい」と思うようになっていました。それは ETM が楽しい、そして必ず盛り上がるということに気づいたからです。自分が幼い頃に知らないうちに友達ができていたのは、ETM のような隔たりなく、みんなで歌って踊るという遊びがあったからだと思います。それは何歳なって同じなんだと改めて感じました。幼稚園、保育園は人との関わり方を学んでいく場でもあります。自分がこれからそういった場に携わる身として、子ども達が楽しく、思い出に残るような学びを提供していけるように頑張りたいです。
25	あまり話したことない子とたまたま目が合ってペアを組むことになった時、一瞬どうしようって思うけど、目が合って笑い合い嬉しくなります。そこで話かけてもらったり、自分から話かけたりして仲良くなれたりするのが楽しいです。このゲームをきっかけに、今ならいけるかなあとはい自分から話しかけやすくなりました。まともに話したことない状態から、ハイタッチしたり一緒に歌ったりすることで、仲良くなりやすいと思いました。この ETM を通して沢山のひとと話して仲良くなりたいと思います。こんな風に他のひとと話して楽しむ機会がないのでとても嬉しいです。

26	私はあまり話したことがない人や関わったことがない人と話すことがあまり得意ではないです。でもこの授業では、いろんな人と関わったり、手を繋いだりしました。仲の良い友達でも、手を繋ぐ事はあまりないので少し緊張しましたを繋ぐのが、手とで、「手汗が…」とか「手が温かいなあ」など話すきっかけが出来、あまり話したことが無い子とも気軽に話せました。また、いきなり初めてのメンバーと手をつないで踊ったり、歌詞の内容を考える事はとても難しかったけれど、この子はリーダーシップのある子だなとか、この子はおとなしい子だなとか、一人ひとりの性格がわかったし、終わった後は初めて出会ったメンバーで考えたり遊んだり出来た事がすごく楽しかったし、もっといろいろな人と話してみたいと思いました。またみんなが優しく声をかけてくれたり、私から話かけてもきちんと返答したりしてくれるので、自分から話す怖さがなくなりました。
27	あまり普段話さない友達とコミュニケーションがとれることによって、新たに友達が増え、少し自分から話しかけにくい子とも仲良くできるようになり、心に変化があると感じました。
28	今までの授業を受けて、ペアの子がいなくてに恥ずかしいと思っていたけど、決して恥ずかしいことではないと気づき、積極的に声に出してアピール出来るようになりました。
29	いつも同じ人と大学生活を過ごしているけど、普段話さない人ともペアになることができ、クラス内の輪が更に広がったと思うし、自分からクラスの皆に挨拶をしたり、声をかけられるようになりました。単純な動作だけど、19歳でも笑顔で楽しめるETMは、人間関係の形成に役立つものだなと思いました。
30	今までクラスの人とかかわりを持つことを避けてきたのですが、今は抵抗感もあまりなく楽しめていると思います。また全員が楽しんでいるので楽しみやすい雰囲気にもなっていて、多少騒がしくても気にならなくなりました。また手をあげたりするのも抵抗があったものの、周りの人が遠慮なくそうすることもあり、恥ずかしさもだいぶふれているのかなと思います。他の人をよく観察する気になるようになった。
31	音楽に合わせて体を動かすことが楽しくて、それを通して友達とコミュニケーションがとれる面白さがあることに気づきました。あまり普段話さない友達とコミュニケーションがとれることによって、新たに友達が増え、少し自分から話しかけにくい子とも仲良くできるようになり、心に変化があると感じました。子どもたちに楽しいと思ってもらえることをしようと思うと、自分たちがやって楽しいと感じれることが一番大切なんだなと思いました。
32	話したことがなくても、たったいちど一緒に歌遊びをするだけで仲良くなれた気がしました。これをきっかけにたくさん話してもっと仲良くなっていくので、歌遊びの力は大きいなと思いました。(中略) いつか先生側に立った時に、今感じている楽しいと思う気持ち忘れないようにしたいです。子どもにどうしたら同じ思いになってもらえるのかをよく考えて、自分からこの遊びは楽しいよ！歌ったら楽しいよ！と伝えられるようにしたいです。
33	人見知りをしてしまう私ですが、ゲームや歌を通して人と関わると、思っていたよりも人見知りをしないことに気付くことができました。私みたいに思っている人は多いだろうなと思いました。

(学生のコメントより筆者作成。原文のまま)